

全 仏

仏暦2539年5月
(1996年)

NO. 418



マヤ堂修復に伴う考古学調査記者会見
(関連記事4～7頁)

財団 全日本仏教会
法人

JAPAN BUDDHIST FEDERATION

(財)日本宗教連盟が意見書提出

昨年の宗教法人法改正に続いて、政界の一部等では、宗教法人に対する課税強化が検討され始めた。そうした中で、去る3月15日、(財)日本宗教連盟では、橋本総理宛に下記のような意見書を提出した。

我々財団法人日本宗教連盟は、教派神道連合会・全日本仏教会・日本キリスト教連合会・神社本庁・新日本宗教団体連合会の五団体の協賛のもと構成され、憲法が規定する信教の自由と政教分離の精神のもとに、我が国における宗教文化の振興を図り、道義に基づく文化日本の建設に寄与し、世界平和の確立に貢献するため、幅広い活動を行っております。

さて、内閣総理大臣橋本龍太郎氏は、施政方針に於いて「国民の不安を取り除く政治」を標榜され、自ら強権政治に警鐘を鳴らしました。

しかし、「平成8年度税制改正」は宗教界に多大な影響を及ぼす政策にもかかわらず、十分な意見を聴取する事なく、何の

議論もなされないまま、閣議決定され、平成8年度予算に関連し衆議院本会議に上程されました。

そこで同予算に関連する「平成8年度税制改正」に対して、下記の点において、甚だしく遺憾の意を込めて、意見を具申するものであります。

更に、我々日本宗教連盟は、内閣における再度の問題点の整理と、決定機関間の調整を期待し、併せて具体的には、国税庁の通達などによる適用除外範囲の実質的な拡大を要望する次第であります。

1、収支報告制の導入について

収益事業を営まない公益法人等についても、収支計算書を所轄税務署に提出するという新たな制度が導入されましたが、収益事業を営まない宗教法人は非課税であるのに、敢えて宗教活動そのものの収支計算書を税務署に提出させるこの制度は、具体的な「国の関与」であり、国及びその機関が宗教活動に介入することを禁じた、日本国憲法第20条及び宗教法人法第84条に違反する「信教の自由」「政教分離」を無視した暴挙であります。制度導入の速やかな再検討を要望致します。

2、損金算入限度額の引き下げについて

公益法人等の寄付金の損金算入限度額は引き下げられる一方で、今回20%に

まで引き下げられました。学校法人と社会福祉法人はそのままに据え置かれ、両法人と他の公益法人との間に、差異が拡大して来ています。

戦後の心の荒廃による社会問題の増加は、偏に知識第一主義の教育のもたらした結果であります。我々宗教者は、その教育の歪みを補って教えにもとづき、社会に救いと希望を与えて来ました。

その社会貢献を認識のうえ、損金算入限度額を学校法人と社会福祉法人と同率まで引き上げるよう、要望致します。

平成八年度 税制改正に関する意見書

マヤ堂修復に伴う

考古学調査記者会見

三月二十八日午後二時より、東京グランドホテルにおいて、マヤ堂修復に伴う考古学調査記者会見が行われた。

ネパールのカトマンズにおいて二月四日に開かれた、ネパール王国主催の記者会見では、マヤ堂の建立されていた位置が、考古学的調査により釈尊生誕にかかわる最も神聖な聖地として認定されたことが発表された。

今回の記者会見は、昨年四月二十七日に行われた、マヤ堂修復日本側専門家会議での討



上坂 悟氏

議の結果を踏まえて行われた。本会の公式見解として、マヤ堂内陣直下から石板が発見されたことの考古学的意味を詳細に解説し、釈



マヤ堂発掘現場、マウリヤ期の構造物

尊生誕の地としてのルンビニーの持つ歴史的文化的枠組みをより明確にすることを目的として開かれた。

会見では、白幡理事長よりあいさつ、続いて川井委員長より本会の取り組みの経過報告が行われた。

続いて本会ルンビニー委員会顧問で、昨年四月十七、十八日の両日現地を視察された奈良康明駒沢大学学長より、ルンビニーの歴史と文化的背景についての解説がなされた。

そして本会から現地調査に派遣され、実際に発掘作業に当たった考古学者の上坂悟氏より学問的見地からの詳細な報告へと進んだ。

奈良師は、一部マスコミにより、釈尊生誕の地としてのルンビニーの所在がインド・ネパールの二説あると報道されたことに触られた。現在のルンビニーが釈尊生誕の地であるとは、考古学的には、百年前ドイツの考古学者によって既に証明されていた。しかし釈迦族の居城であったカピラバस्तウの所在地に關しては、インド・ネパールの二説あり現在論争になっている。このことが混同されて報道されたのではないかと語った。また釈尊が歴史上実在の人物であった点を強調された。

続いてマウリヤ王朝のアショカ王（インド統一の最初の王）が紀元前二四九年、ルンビニーに建立したとされる石柱の問題に触れ、



奈良康明師

その碑文にある釈尊の生誕を記念して造ったものが「石柵」か「石板」か、あるいは別のものであるのかが、今日まで学問上の重要な論点となってきたことを述べられた。

そして、今回の調査で旧マヤ堂内陣直下のマウリヤ期の層から、アシヨカ王の碑文が意味すると推測できるものが出土したこと。またルンビニーの一地点（石板が出土したスポット）が、釈尊生誕の場所として今日まで伝承されてきたと推測可能な、考古学的な発見がなされたという二つの点を、今回の発掘調査の持つ重要な意味として挙げられた。

また、今回の発見でアシヨカ王の碑文の中の文字を「石板」という読み方が学問的に完

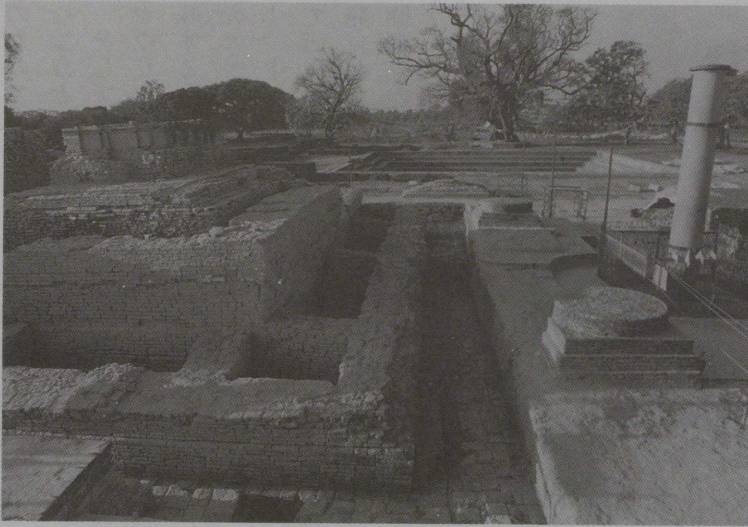


マヤ堂内陣直下、マウリヤ期のチャンバー（方形空間）に安置されていた自然石（南北70cm×東西40cm×厚さ10cm）、横に置かれたメジャーは1目盛が10cm

全 仏

全に証明された訳ではないこと、また今回出土した石板が、アシヨカ碑文中の「石板」（あるいはそれに相当するもの）なのか、アシヨカ王より時代をやや下るものなのかという点については、更なる検討が必要であると付け加えられた。

上坂氏は資料を提示しながら、マヤ堂内部



発掘現場全景、右に見えるのがアシヨカ王建立の石柱

がマウリヤ期（紀元前三世紀）より、現在まで、五期にわたって構造変遷を遂げてきたことを説明した。そしてマウリヤ期（第一期）の建造物の規模が東西二十六M、南北二十一M、外壁・内壁に二重に囲まれ、内部は東西十七・五M、南北十三・五Mの規模で、東西五列・南北三列、計十五箇所のチャンバー（方形空間）で構成されていると述べた。そしてこのチャンバー内部から、マウリヤ期に属するNBP（北方黒色磨研土器）、赤色土器、銀製打刻貨銭、銅製貨銭などが出土したこと



記者会見に集まった報道陣

を報告した。

次に、このマウリヤ期の建造物の西側二列目の中央チャンバーから周囲をレンガで囲まれた状態で、自然石（南北を主軸とし七十cm×四十cm×十cmの大きさの小石を大量に含む礫岩）が水平状態に安置されており、その下部六段もレンガが規則正しく配列され、内部を密閉した状態であったことを報告した。そしてこのような大型の石はルンビニーの二十キロ周辺には存在せず、明らかに何かを意味するために、意図的に運ばれて安置されたのではないかと示唆した。

続いて、この自然石の出土された場所から上部方向へ各時代の構造を積み重ねていくと、現マヤ堂の礼拝堂内陣直下に至ることから、自然石が出土した場所が、仏教徒が長く聖なる場所として尊崇してきた伝承を有しているのではと、考古学的見地から示唆した。

また現在、出土遺物の整理及び図面類の作成と、出土した資料の化学的な検査を行っており、終了後に報告書を出版する予定であることを述べて報告を終えた。

発掘調査が終了し、本会とLDTによるマヤ堂修復事業も新たな局面を迎えることとなった。今後の事業の推移については、本誌でも逐次報告していく予定である。

マヤ堂考古学調査の経過

- 1992年 12月
当会から考古学者の上坂悟氏を現地に派遣。本格的考古学調査を開始。
- 1994年 2月25・26日 (ルンビニー)
第1回ルンビニー園マヤ堂修復専門家会議開催。日本より奈良康明教授参加。継続調査を合意。
- 1995年 2月17日
全日本仏教会調査団とLDT(ネパール王国ルンビニー開発基金)はマヤ堂中心部より、マウリヤ期の複数の構造物と礫岩を発見。
3月15・16日 (ルンビニー)
第2回ルンビニー園マヤ堂修復専門家会議開催。席上各国の学者より今回の発見を称賛される。
4月15～20日
奈良康明教授(本会ルンビニー委員会顧問)現地視察。
4月27日(東京)
マヤ堂修復日本側専門家会議開催。上坂氏、奈良教授、中村元東方学院院長、塚本啓祥宝仙学園短大学長、小西正捷立教大学教授等出席のもと協議。更なる文献学等方面的検証の必要性を示唆されるも、今回の発見が釈尊生誕の聖なる場所という伝承を否定するものではないと結論。
- 1996年 2月4日(カトマンズ)
記者会見。本会から、川井委員長出席。上坂氏、LDT主任考古学者リジャー氏、同国考古局コシュ氏連名でマヤ堂の位置が最も神聖な聖地であることを発表。
2月6日
ビレンドラ国王夫妻現地視察。
3月28日(東京)
記者会見。

第22期全日本仏教会 ルンビニー委員会

- 佐々木孝一 (曹洞宗)
伊井 智昭 (浄土真宗本願寺派)
岡川 秀英 (真宗大谷派)
川井 匡俊 (浄土宗)
渡辺 清明 (日蓮宗)
川島 宏之 (高野山真言宗)
本多 道一 (臨濟宗妙心寺派)
山田 俊和 (天台宗)

- 中村 義英 (真言宗智山派)
若槻 繁隆 (真言宗豊山派)
加藤 隆宣 (東京都仏教連合会)
山田 勝義 (千葉県仏教会)
本間 孝康 (神奈川県仏教会)
加納 博司 (岐阜県仏教会)
岩田 文有 (愛知県仏教会)
井桁 雄弘 (大阪府仏教会)
水谷 栄寛 (全日本仏教青年会)

ルンビニー委員会開催

三月十四日午後一時より、東京グランドホテルにて、平成七年度第三回ルンビニー委

員会が開催された。

最初に白幡理事長よりあいさつがあり、その後川井委員長を議長に議事に入った。

委員長のネパールの現況報告に続いて、吉橋国際文化部部长、深澤次長より出張報告がなされた。

議題 今後の事業方針について意見を求める件

マヤ堂修復に伴う考古学調査の終了、新マヤ堂の建立と遺跡の保存方法、考古学者の上坂氏の今後の予定などが報告され、活発に協議された。三月二十八日、東京での記者会見が決定された。

国際委員会開催

去る三月十二日午後二時より、明照会館会議室で、第二十二期第一回国際委員会が開催された。白幡理事長あいさつの後、議事に移った。

① 正副委員長選出の件

委員長に浄土宗の松濤弘道師、副委員長に天台宗の鎌田良昭師を選出した。

② WFB執行委員会の報告

昨年六月八日、九日、十一月二十三日、二十四日、バンコクで開催された内容について報告された。

③ 国際交流に關しての情報交換

③ 国際交流協議会
日中韓仏教交流協議会
昨年五月二十二日、五月二十三日、北京で開催された内容について報告された。

日韓仏教交流大会

昨年十月三十日、十一月三日韓国の慶州において開催された大会の内容が報告された。

日伯修好一〇〇周年仏教記念講演会

昨年十一月四日、十一月十三日、ブラジルにおいて開催された。松濤弘道師が本会代表として講演を行った。

④ その他

ルンビニー園マヤ堂の考古学調査が終了し、

二月四日カトマンズにおいて記者会見が行われたことが報告された。
本会による英文広報誌の発刊が今後検討されることになった。

事務局録事

四月一日

三日 局内会議

十日 法律相談室

十五日 全仏大会協議会

十六日 総持寺退董入山式出席

十七日 局内会議

十九日 「日宗連」監査

二十二日 同和委員会

二十三日 ルンビニー委員会

二十四日 「同宗連」総会出席

二十五日 「日宗連」理事会・参議會
法律相談室

哀 悼

花木義光師（元全仏評議員・組織部長）

三月二十六日 六十八歳で遷化

真言宗智山派元宗務出張所長

仏旗・バッチ

頒布御案内

大仏旗 たて一四〇cm×よこ二一〇cm

三二、〇〇〇円

中仏旗 たて九〇cm×よこ一三五cm

一八、〇〇〇円

小仏旗 たて七〇cm×よこ一〇〇cm

九、三〇〇円

手旗 たて七〇cm×よこ一〇〇cm

八、〇〇〇円

法輪旗 たて九〇cm×よこ一三五cm

七、四〇〇円

仏旗バッチ 二cm×四・五cm

五〇〇円

法輪バッチ 直径一cm

一、〇〇〇円

お申し込み

全日本仏教会財務部

電話 〇三―三四三七―九二七五

FAX 〇三―三四三七―三二六〇